



*The hare knows
the wolf's love*

脱兎は狼の
愛を知る

R-18

本文
72P

のほ
しよこおっ
だめっ
も...っ
だめえ
は
いくっ
いきますっ



*The hare knows
the wolf's love*

は
ま

は
ま

は
ま
...

は
ま
...

は
ま

は
ま
...





こんな夜中に
誰だ？

!?

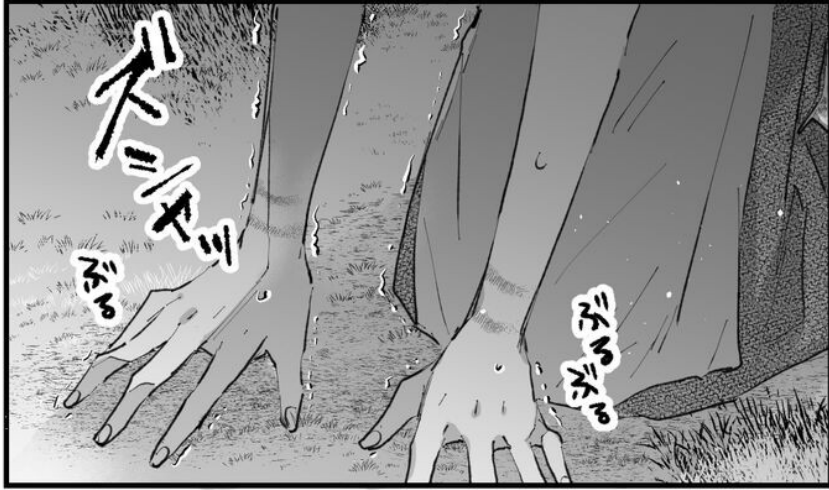
ウサギ!?

サササ

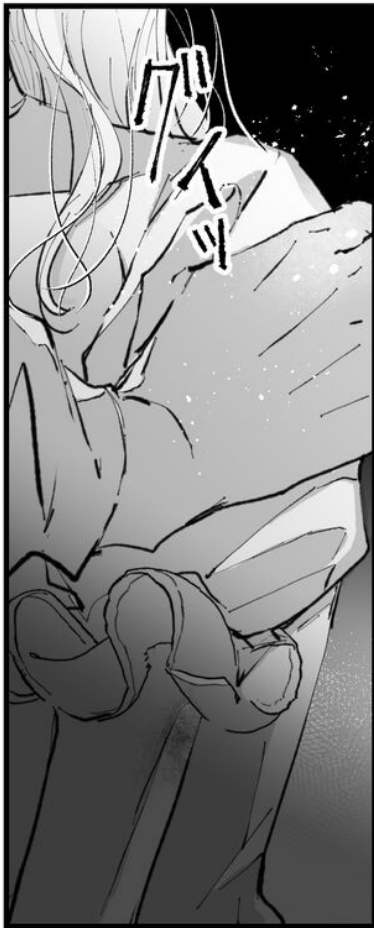
ヒュー

ヒュー

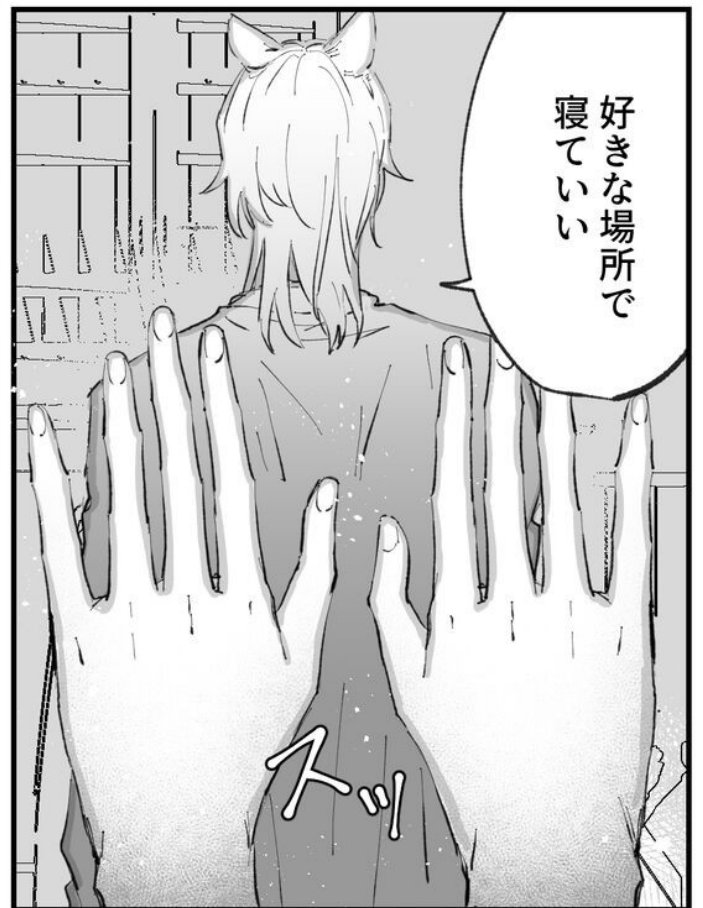
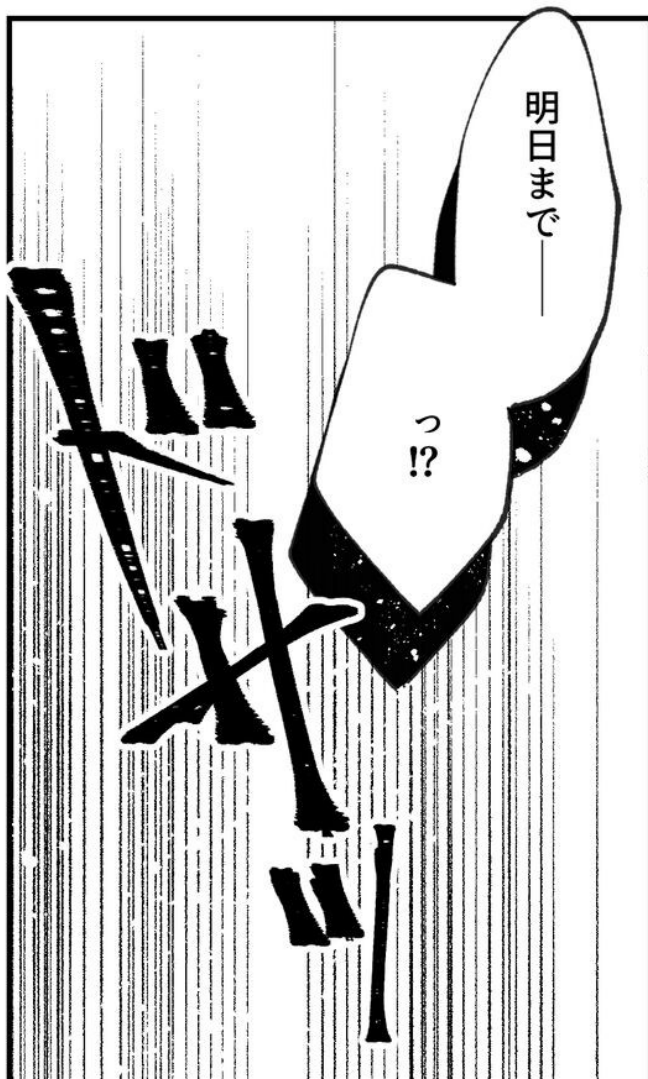
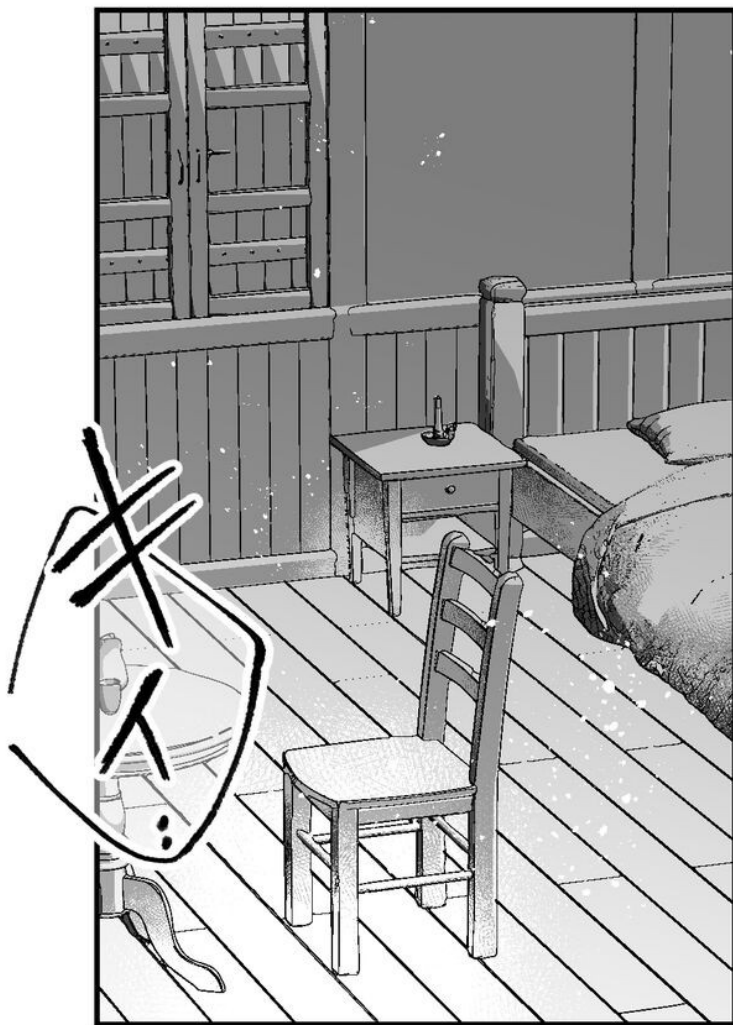
ヒュー

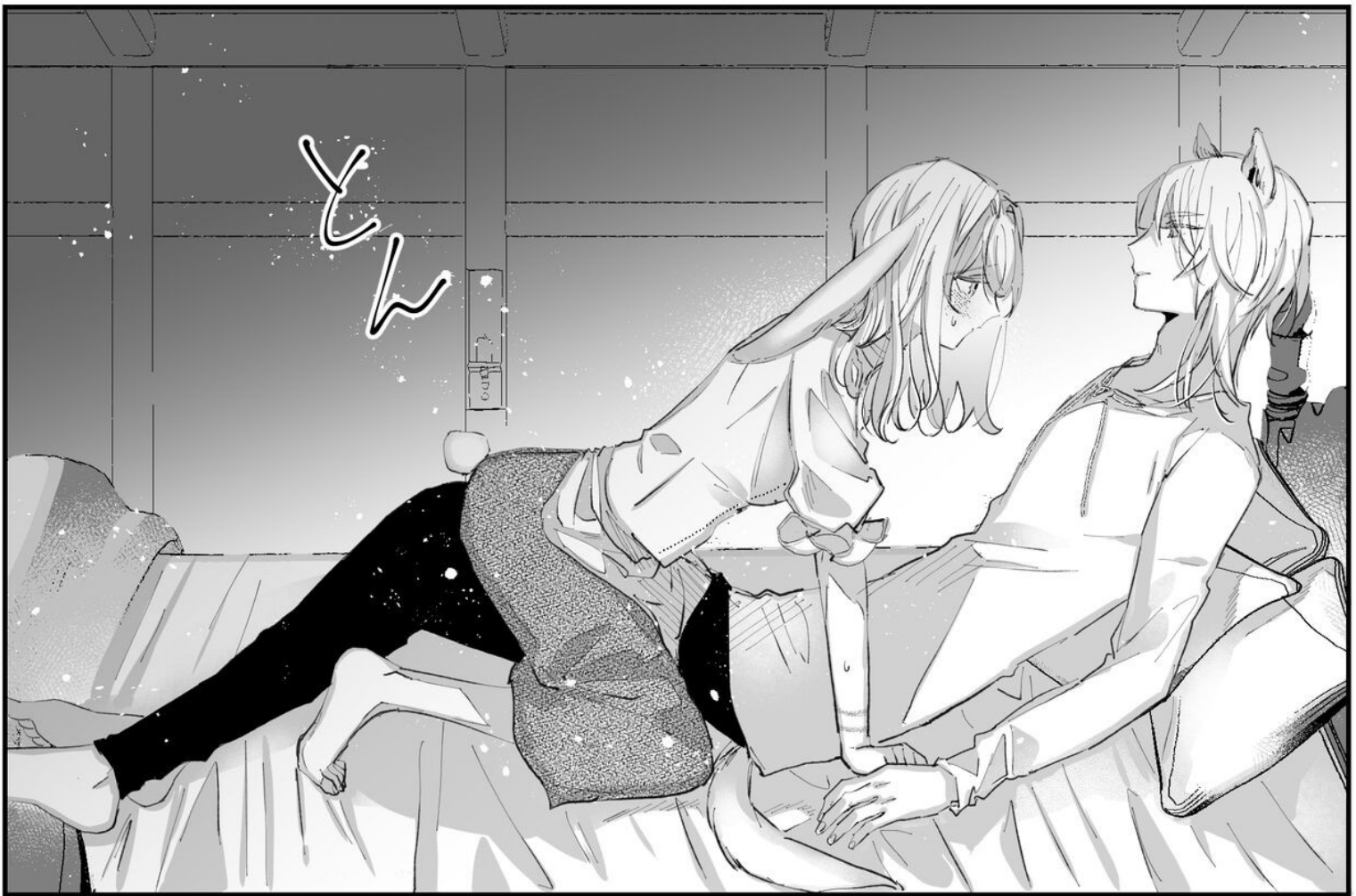


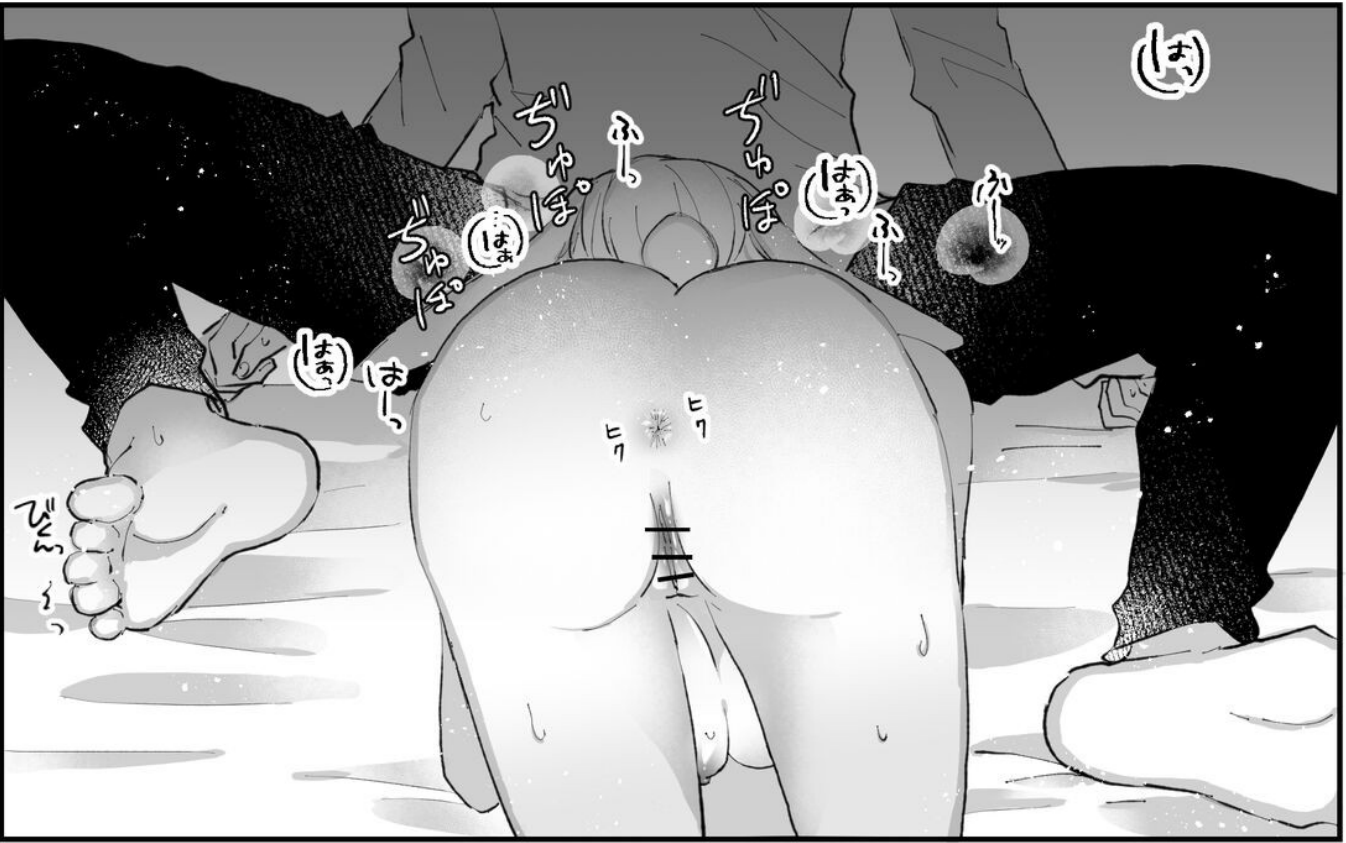








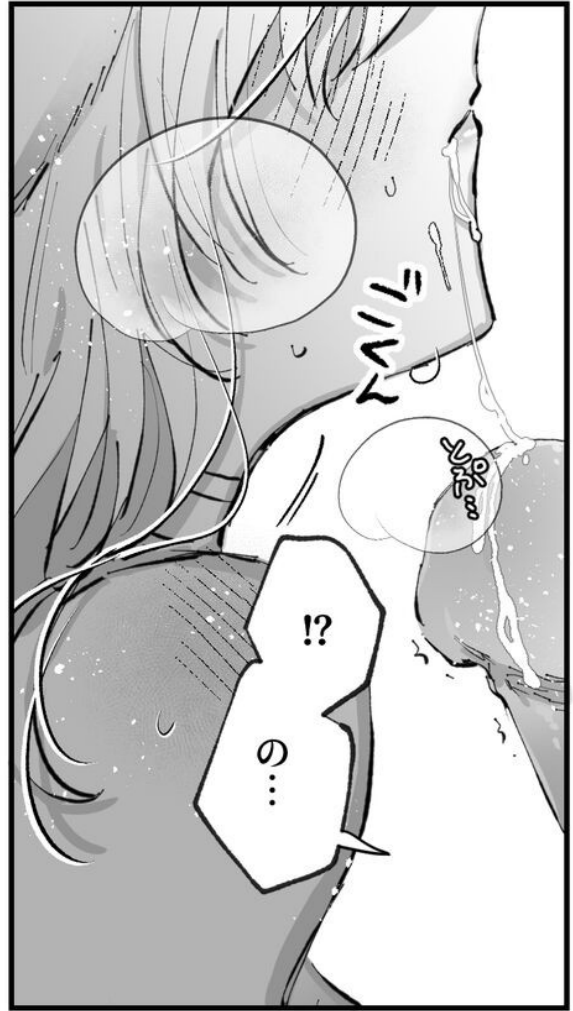






けっ
気持ちよかったですか…?

…?
飲むものだって
教えられたの
ですが…



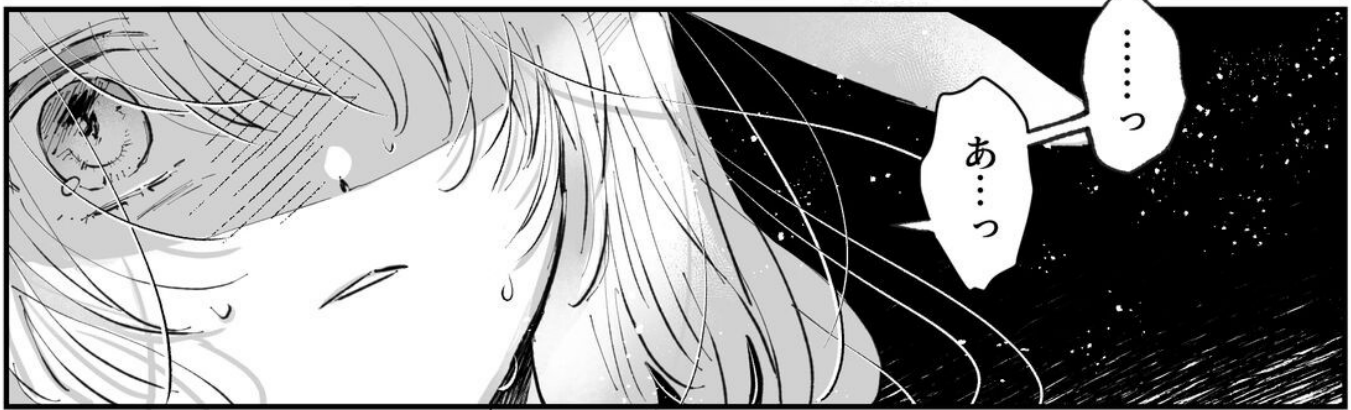
ひん

!?
の…



はあ

あんた……



あ…っ
っ……

ごめんなさいッ

私下手でしたか？
次はもっとうまく
やります…！！
お怒らないで…っ

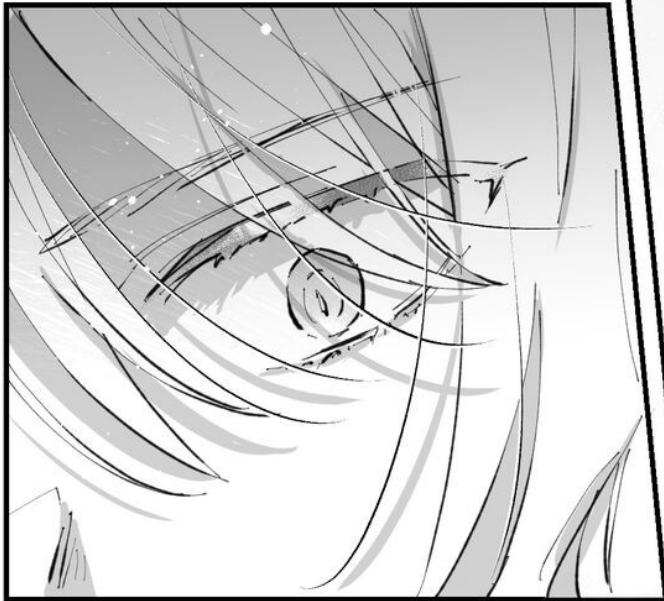
!?

痛い事は
しないで…

いっ

びる
びる

びる
びる



よく見ると
傷が多い
縄で縛られた
跡もある

それにニムシ



やっぱり
狼の匂いが
する...





……
大丈夫だよ

あんた
の名前は？



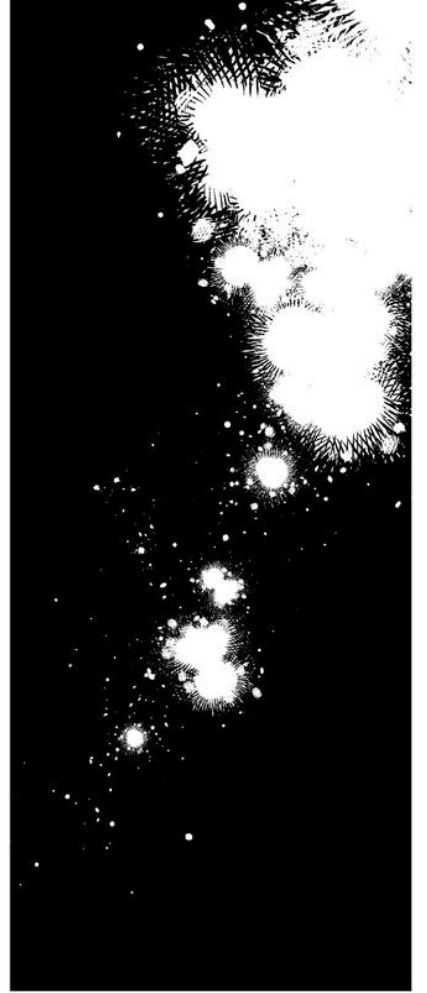
あんたが居ただけ
この家に来てくれよ



俺はレオだ



……
ララ



可愛いな…



恐らくララは
狼から逃げ出して
来たんだろう



草食を囲う
……
よく聞く話だ

イン





今まで誰も
草食動物に
そんなこと





っん

グクグ



……っ



はーっ

んうっ

はーっ

はーっ

はーっ

はーっ

はーっ



はま

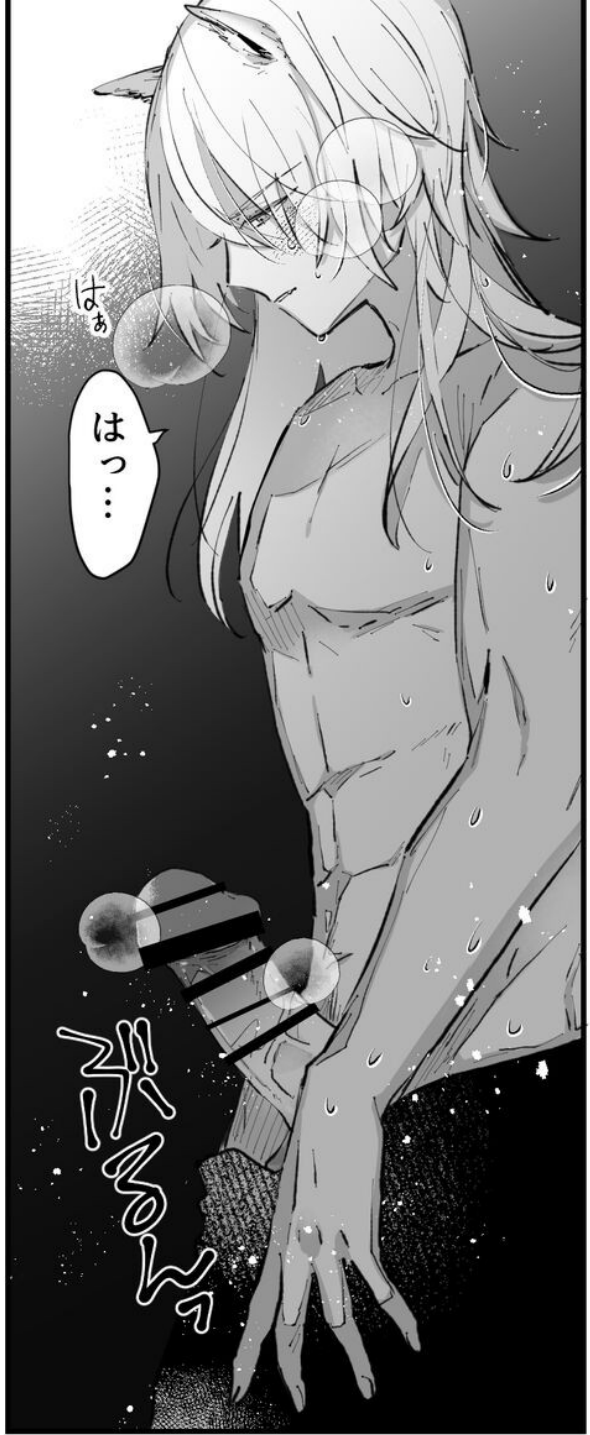
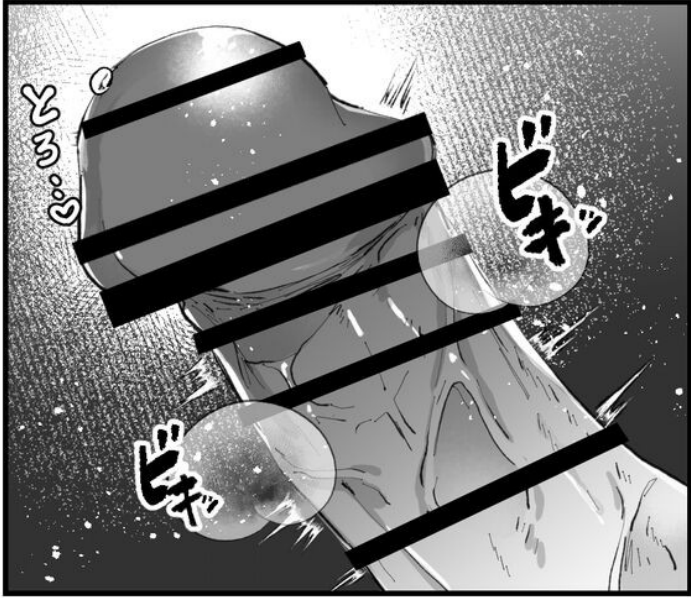
はい……っ

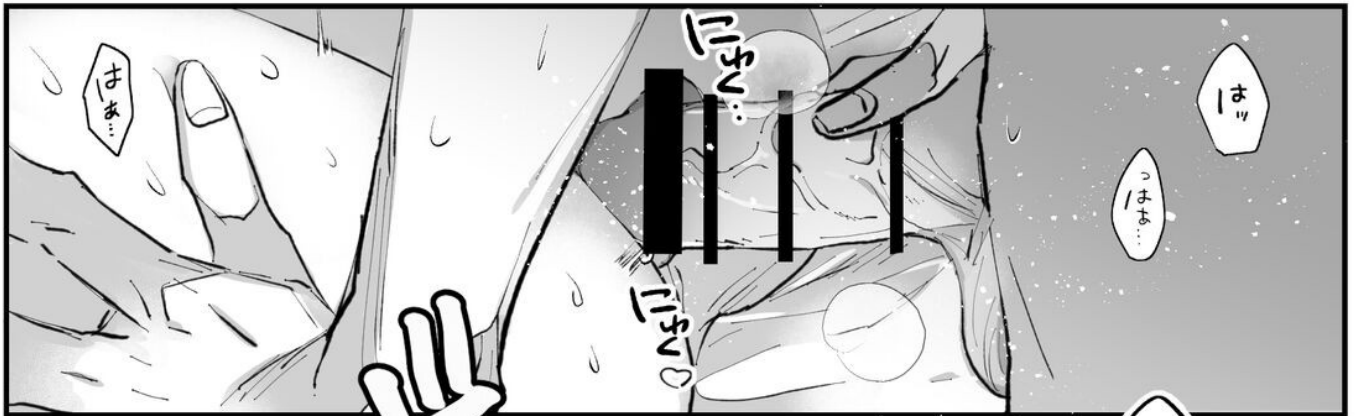
はま

はま
っ……
いいのか？

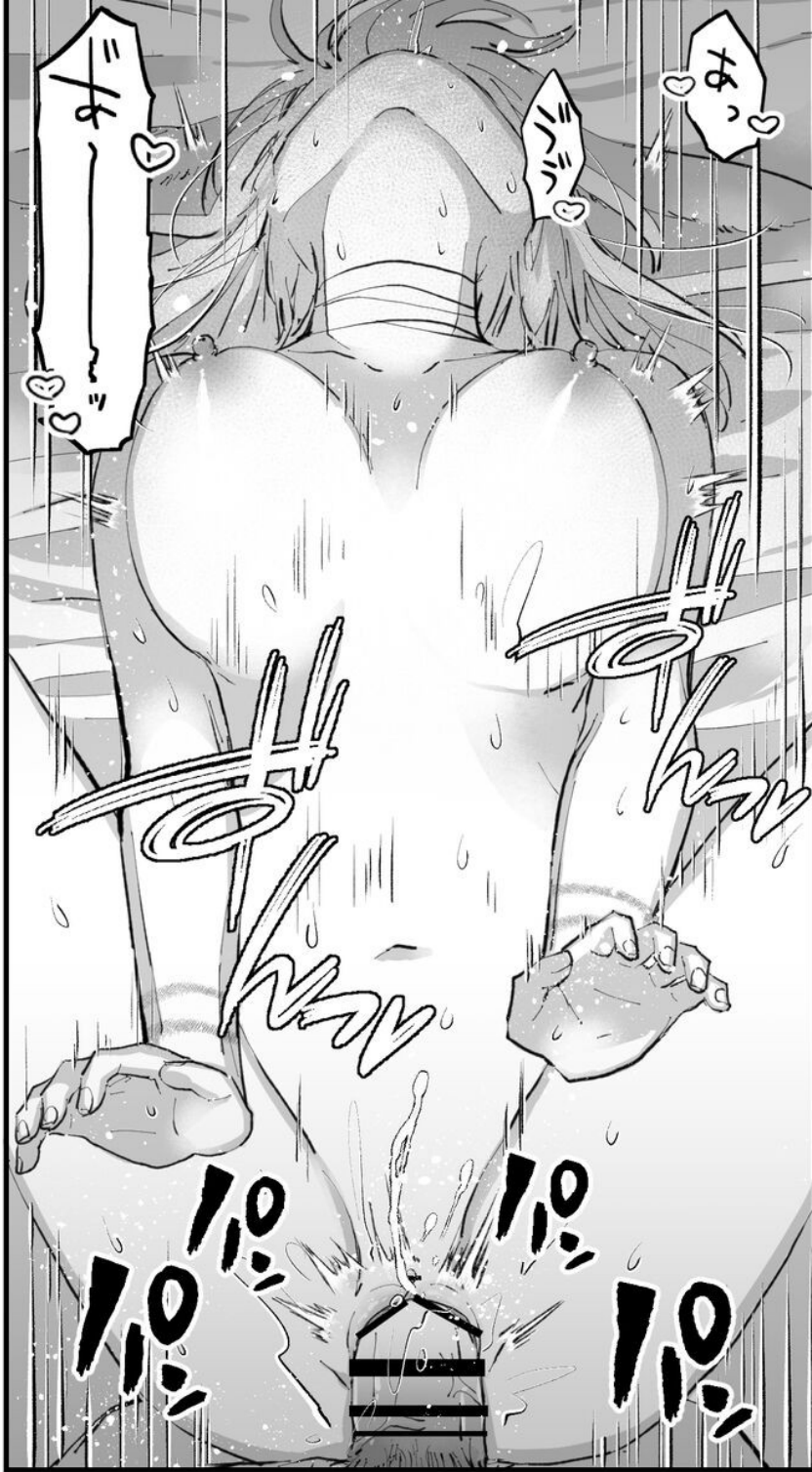


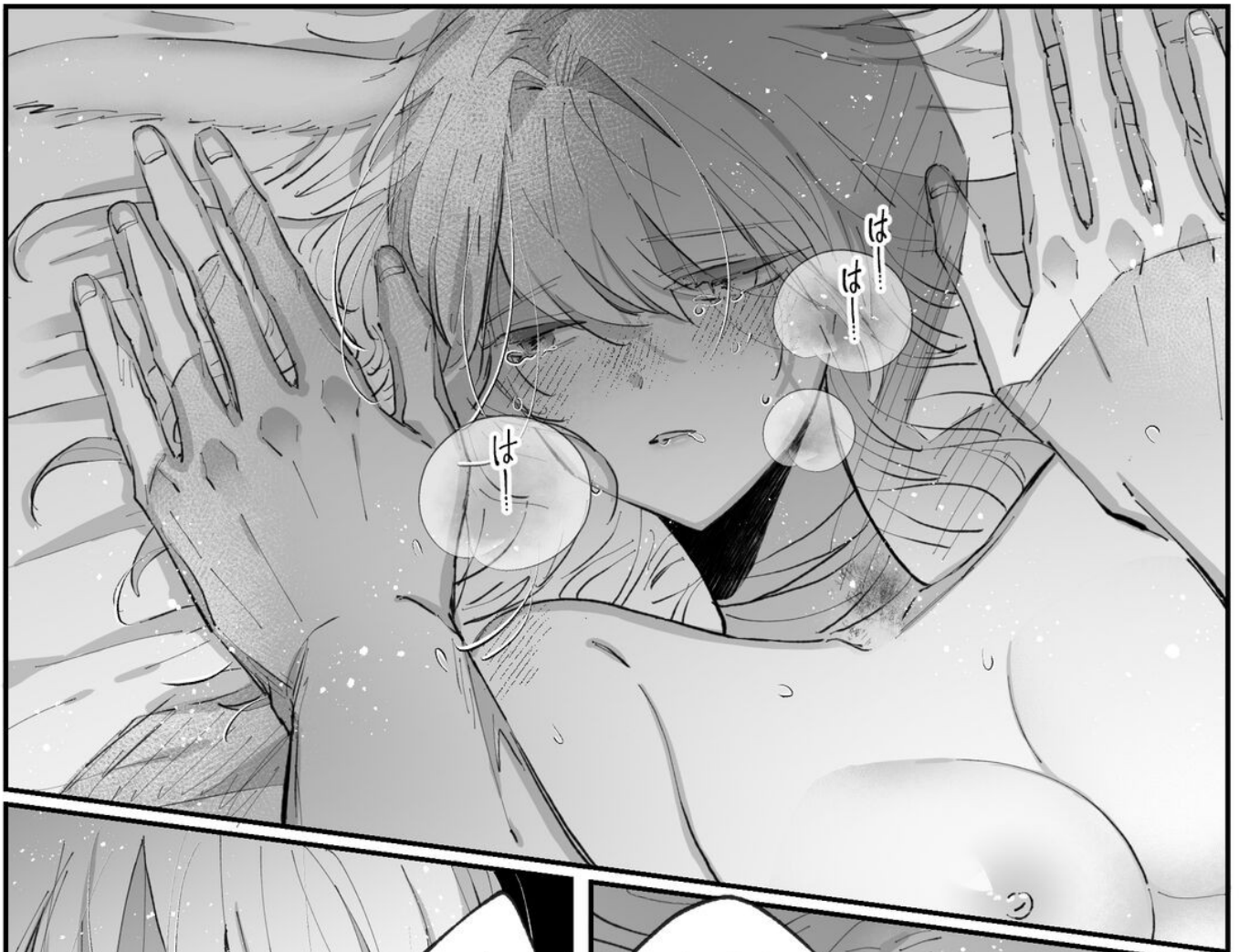
……勘弁してくれよ













っく♡

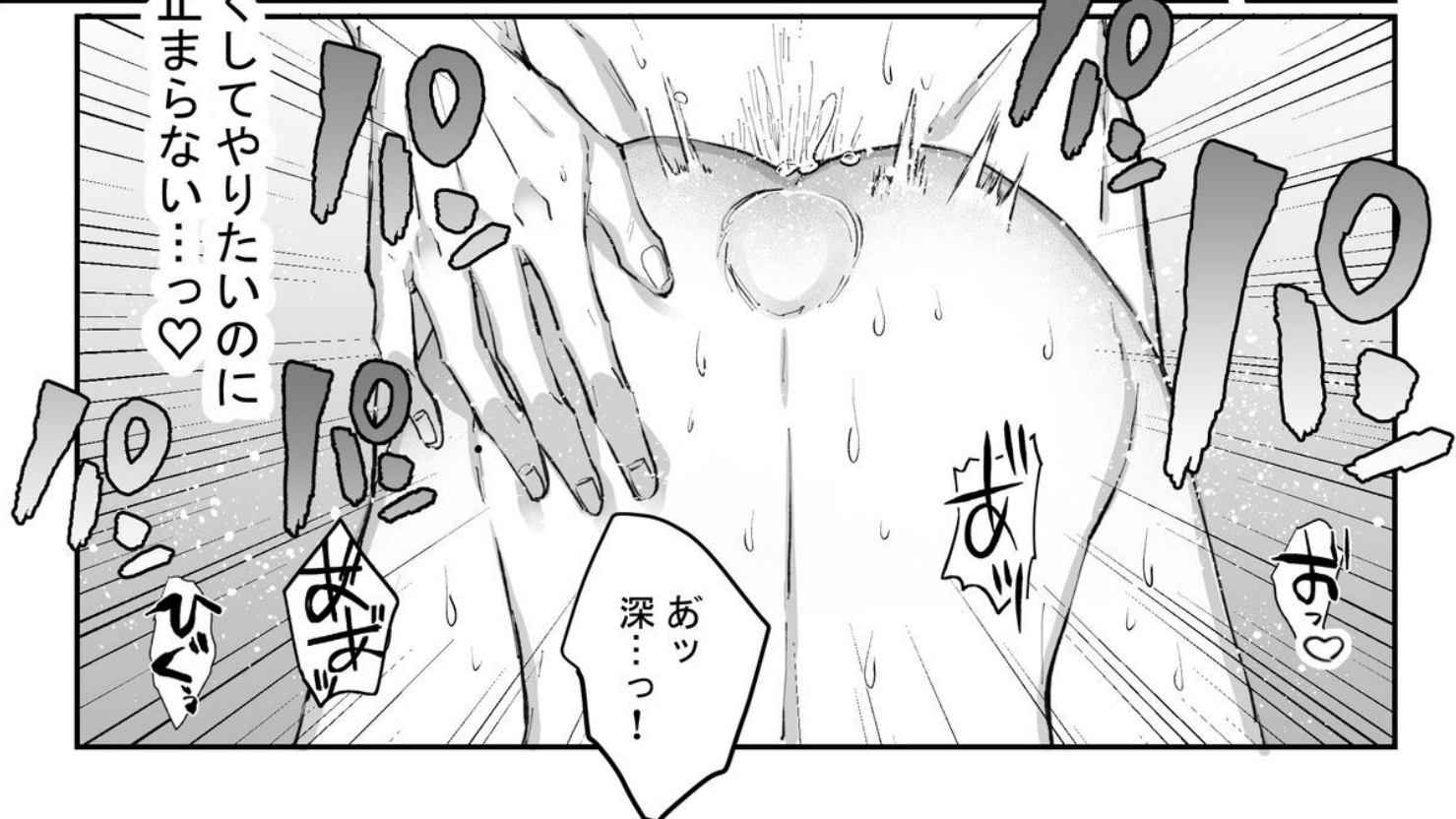
んんん

んん…っ♡♡

ア
る
ん
♡
き
ゃ
ん
っ

あ…!♡

優しくしてやりたいのに
腰が止まらない…っ♡



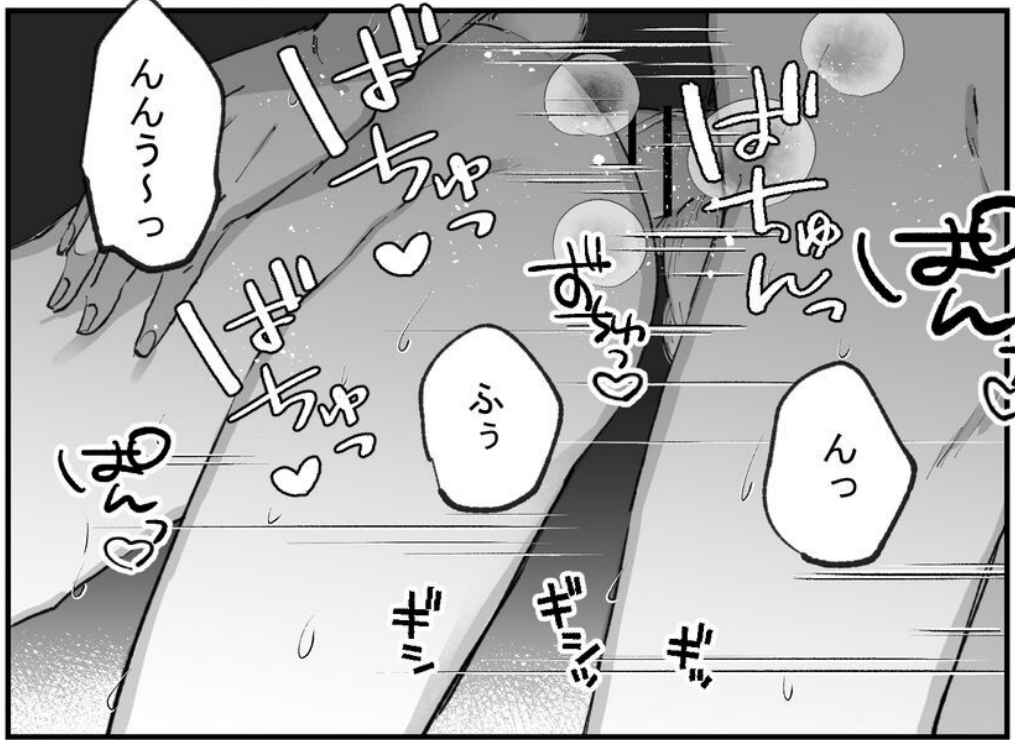
んんん

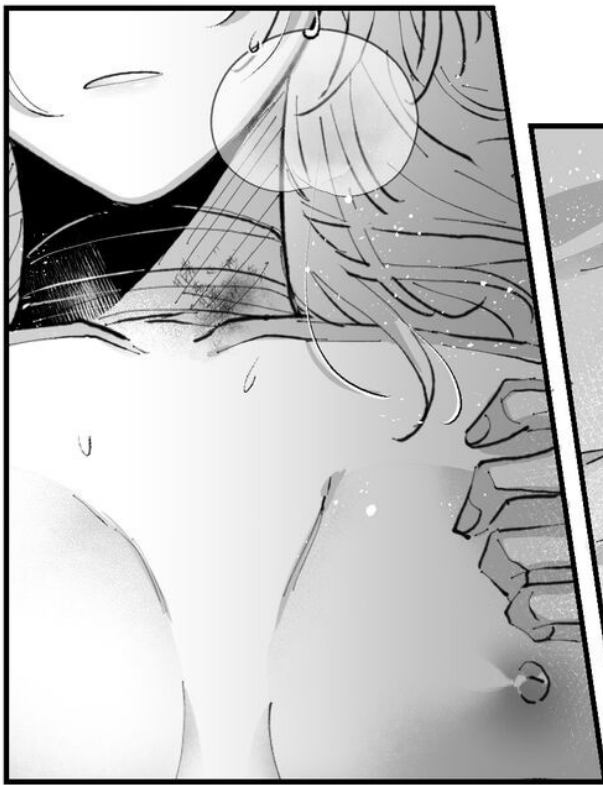
あ
あ
あ

あッ
深…っ!

あ
あ
あ

あ
あ
あ





レオさん

にに

ふ

ふ

きもちよかったですか…？

その傷は

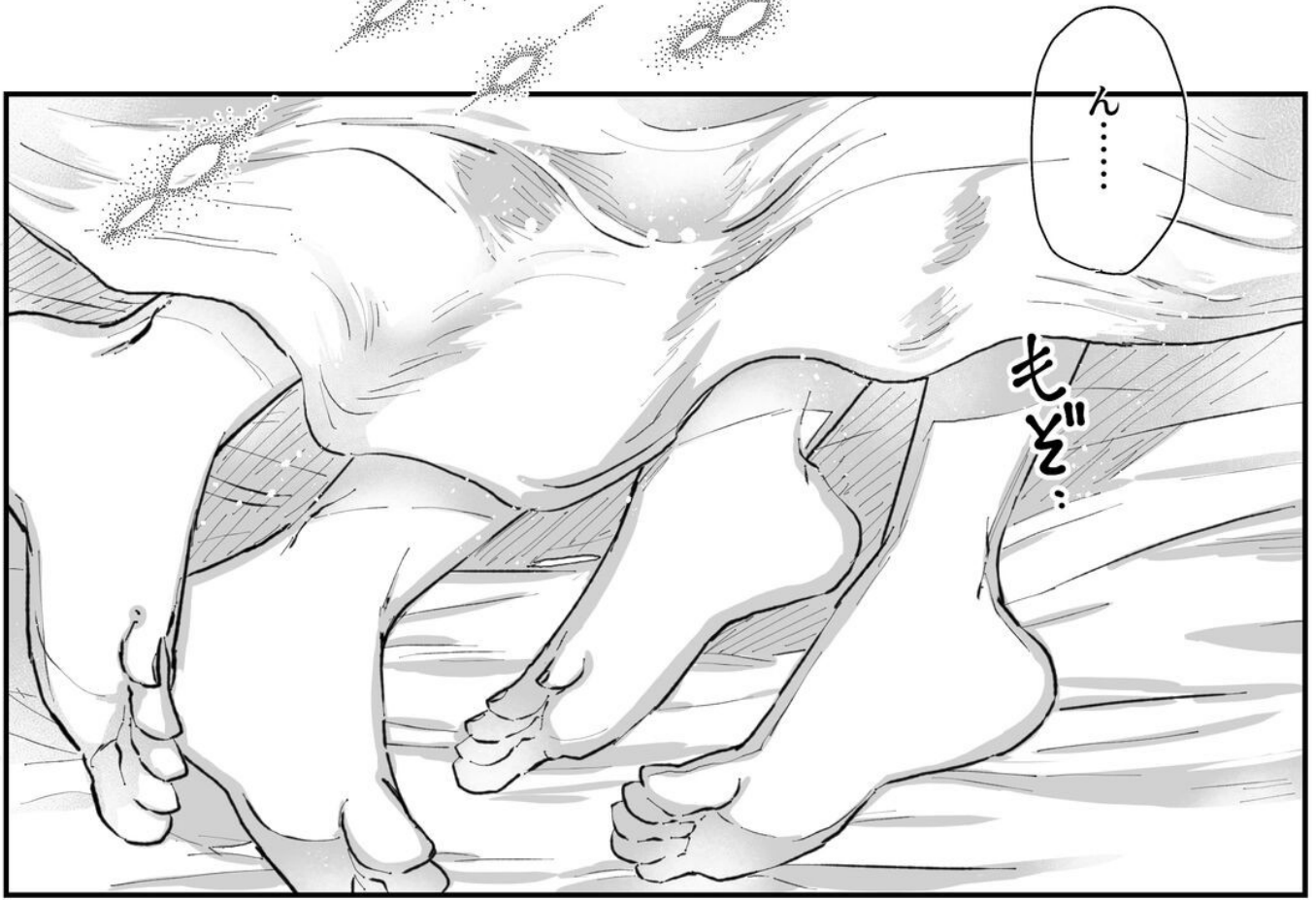
聞き出して
良いのか？

いや
何でもない

ララから
言い出して
くれるまで
待つべきだ

ああ

気持ち
よかったよ





ララ

だって

逃げなきや

起こさないように…

どんなに優しく
見えたって

ごめんなさい
マントだけ
貰います



狼は

いつ私の喉元を
食い破るかわからない…

……

トク!



お礼も
言わないで

あ
ごめんなさい
私

っ



ララ



俺はあんたの
嫌がる事は
絶対にしてない



このまま俺と
暮らさないか

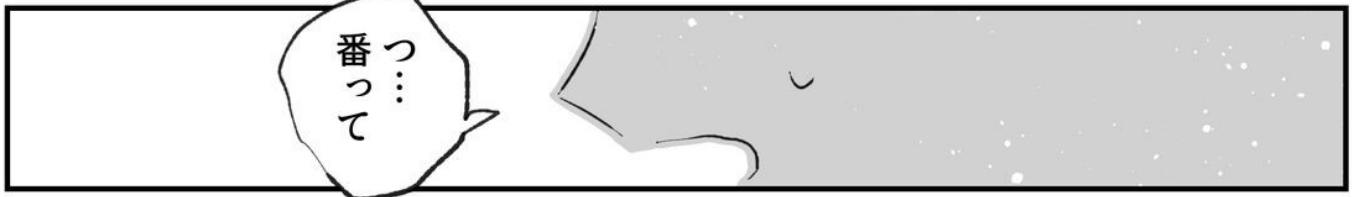


約束する
だから



それでいつか
あなたの気持ち
が俺に向いた時
で良い

俺と番に
なって欲しい



っ…
番って



レオさんは狼
じゃないですか

狼は生涯で
一匹としか
番わない
のでしょ
う

私を
選ぶ理由が
わかりませ
ん



!?

ギョッ



狼が
怖いなら
牙を折る



それに

私は
狼に…



…悪い



やめてください…っ！



や

あんたが…
何か隠している
事には気付いてる

言いたくなければ
言わなくて
いいから

狼は恐ろしい

狼の言葉なんて
信用できない

でも

傍にいて
欲しいんだ

命を握られる
おぞましさを
知っている

なのに彼の言葉は
私の孤独に
沁み込んで

信じてみたいと
思ってしまった



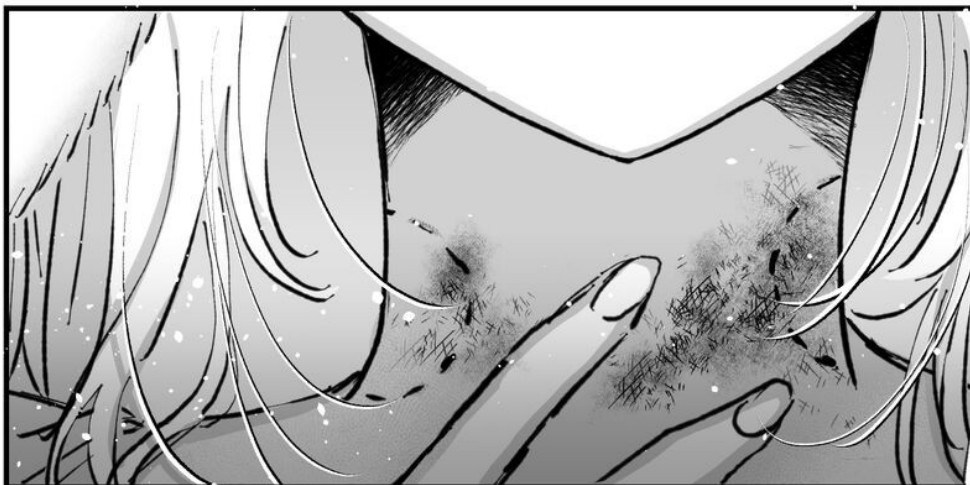
私は狼に
飼われていました



レオさん



レオ



もう
殺されるかと思って
逃げ出したんです



死にたくない

死にたくない

喰い殺される
のほいや……



だから
逃げ出したのに

アツシ



狼

一晩しのげれば

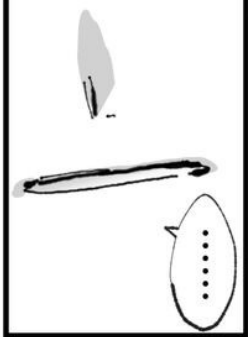


もうあんな
日々を送るのは
いや……!



……あの
出ていきますね
昨夜かくまって
貰わなければ
私はきつと
死んでいました

本当にありがとうございました
ございました



……



……



……
何故だ？



……それは
ララの瑕疵では
ないだろう

出て行きたい理由が
それなら
俺はあんたを止める

俺が嫌でならと
言うのなら……
俺は少し家を
離れるから
その間に
行って欲しい



あんたを無理矢理
留めようとすれば
俺には出来てしまうから



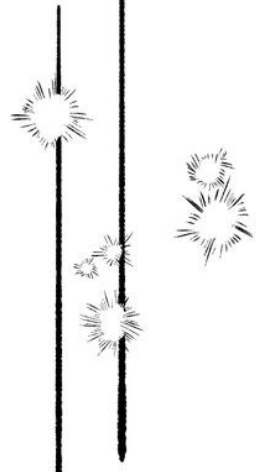
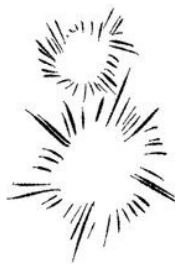
……私も

わ…

…っ

私も

レオさんと
一緒に
いたいです



レオさんと
暮らし始めて
数カ月がたった

ザッ

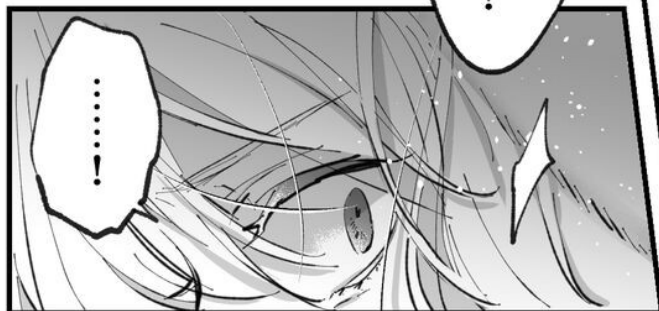
彼と過ごす時間は

陽だまりの中に
いるみたい
に穏やかだ

食べ頃だ

幸福だった

レオさんは
甘いものが
好きだから
砂糖と煮詰めたら
喜んでくれそう



ガサ

やっと
見つけた



ララ



どうして
ここに……っ



たかがウサギ一匹
何故こんなにも
見つけられない
のかと思っていたが

成る程な……



エザラ……様



米

ト
○○○



お前から
狼の匂いが
する

ぎゃ……



俺以外の
狼に取り入り
暮らしていたなど
舐めた真似を……!!



餓えて死にかけて
お前を拾ってやった
恩を忘れて逃げた上に





お前が

誰の物なのか



いや

やだ

ごめんなさい

ドクン
ドクン



忘れたのならば
思い出させてやる

ララ



よく
締まる……ッ



おん

ひびく





…っ
出すぞララ

…全部飲め
こぼしたら…
指を喰うぞ

はは……本当に
お前は可愛いな

ララ—



あッ

ララ

いつでも喰える
ウサギのお前を
こうして
愛してやれるのも

淫乱な身体を
満足させて
やれるのも
俺だけだろう？

……
分かったなら
もう二度と
嫌だなどと言うなよ

あッ
あッ

あッ



俺を
拒絶するな……!



やだ……っ



……っ



離して……っ!!



……
怖い



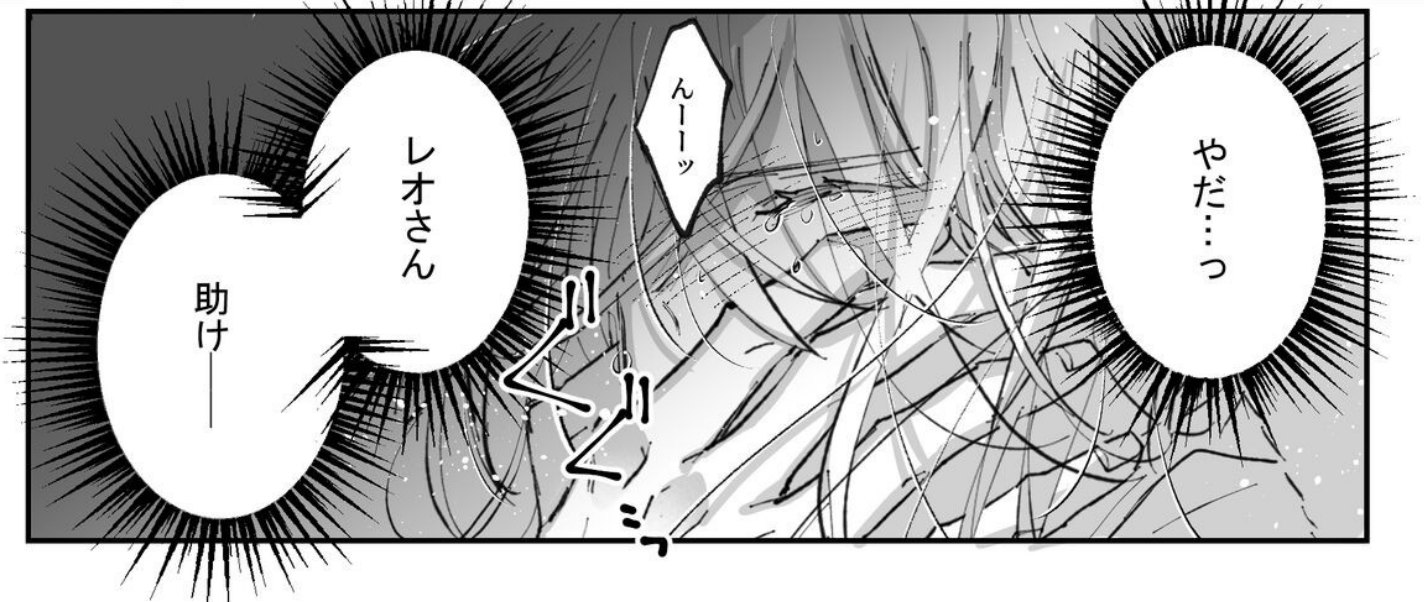
あなたとは

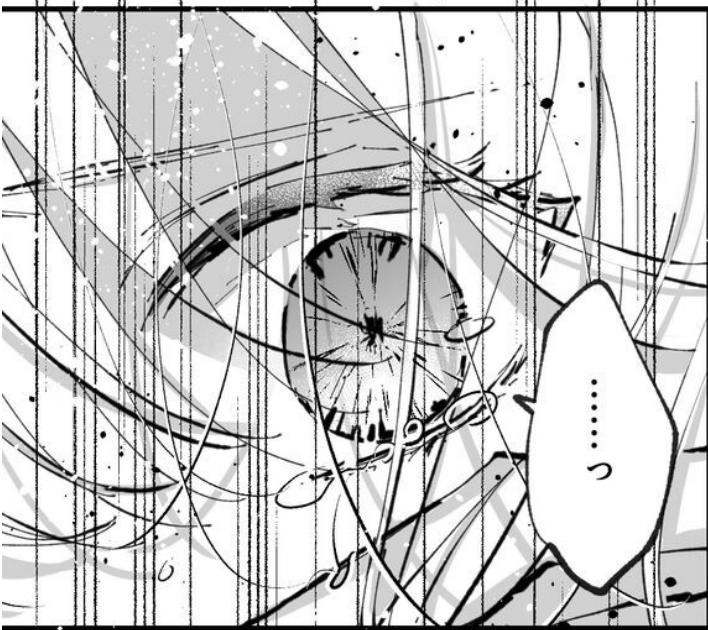
行きません……



……
さ



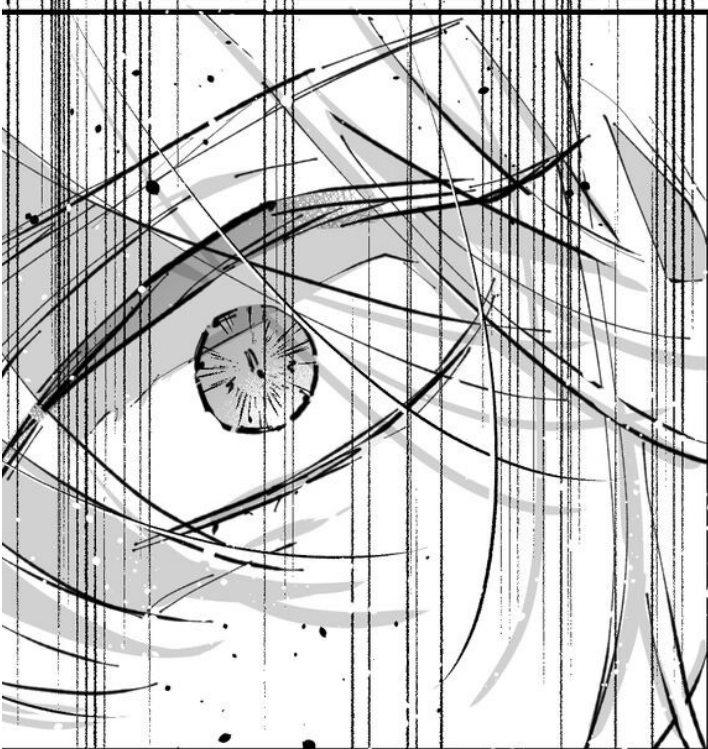




.....
フ



.....



.....
ララ?



ガ
ガ

ララ?



俺の番に



触れるな



レオさん…っ！

ハッ……
番だと？

そいつはウサギだぞ
狼とウサギの番など
聞いた事もない…
愛玩の間違い
じゃないのか？



お前も同じ狼なら
俺の言葉の重みが
分かるだろう



ララの身体には
俺の匂いが
染み付いていた筈だ


鼻の良い狼が
おまえ
気付かないわけがない

他の狼の獲物だと
知っていた上で
何故そのウサギを
囲っていた?



……
貴様


……レオと言ったな



…そんなの

好きになったからに
決まっているだろうが

本能に準じる
俺たちには



理由はそれだけで
充分だろう



……っ
私はレオさんが
好きなので

何を言われても
あなたとは
行きません

……
わ

……
っ



ララ



……
っ

びくっ

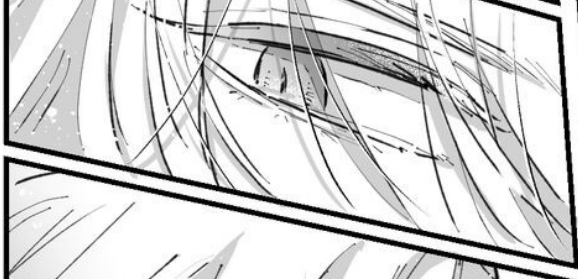


そして

選ばれたのは
俺だ



……
…… 興覚めだ



…
ララ

やっぱり
お前を喰い殺して
おけばよかった





レオさん…っ

はーい

はーい

はーい

レオさん…っ♡

私…っ

レオさんだけ
いれればいい…っ♡

キキキ

カチカチ

レオさんだけ…っ

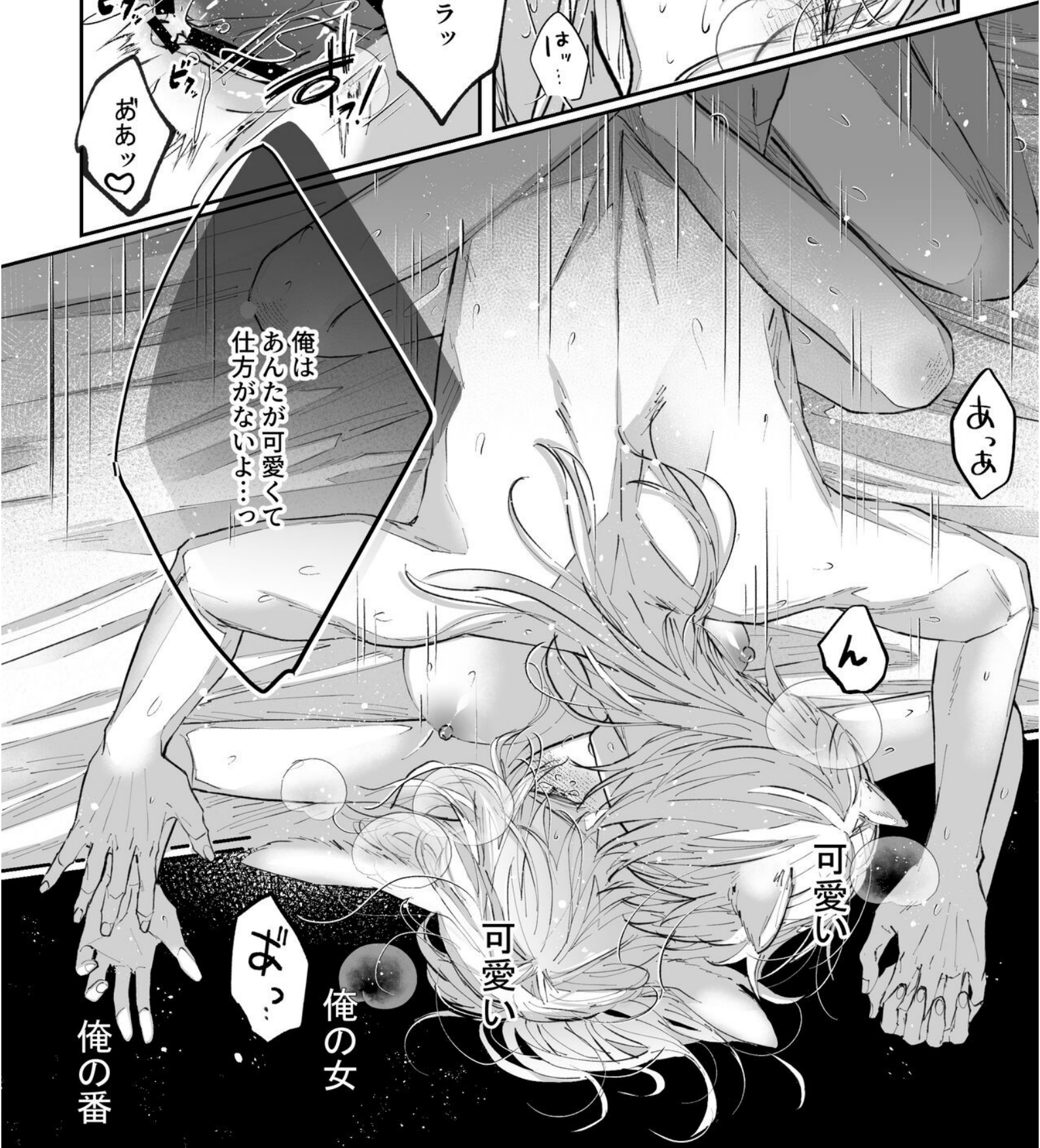


バクッ
バクッ

バクッ
バクッ

バクッ
バクッ

ソクッ



俺は
あんたが可愛くて
仕方がないよ...っ

あ、あ

ん

可愛い

可愛い

おっ...

俺の女

俺の番



あの男を
殺してやりたかった



あんたに同族を殺す姿を
見られたくなかったんだ



もし次に

俺たちの前に姿を見せたのなら

殺してやる

...

俺もいくっ

びるっ

ー
ラ
グ
グ
ッ

びるっ
びるっ
びるっ

はー

はー

はー

はー

ととと

びるっ

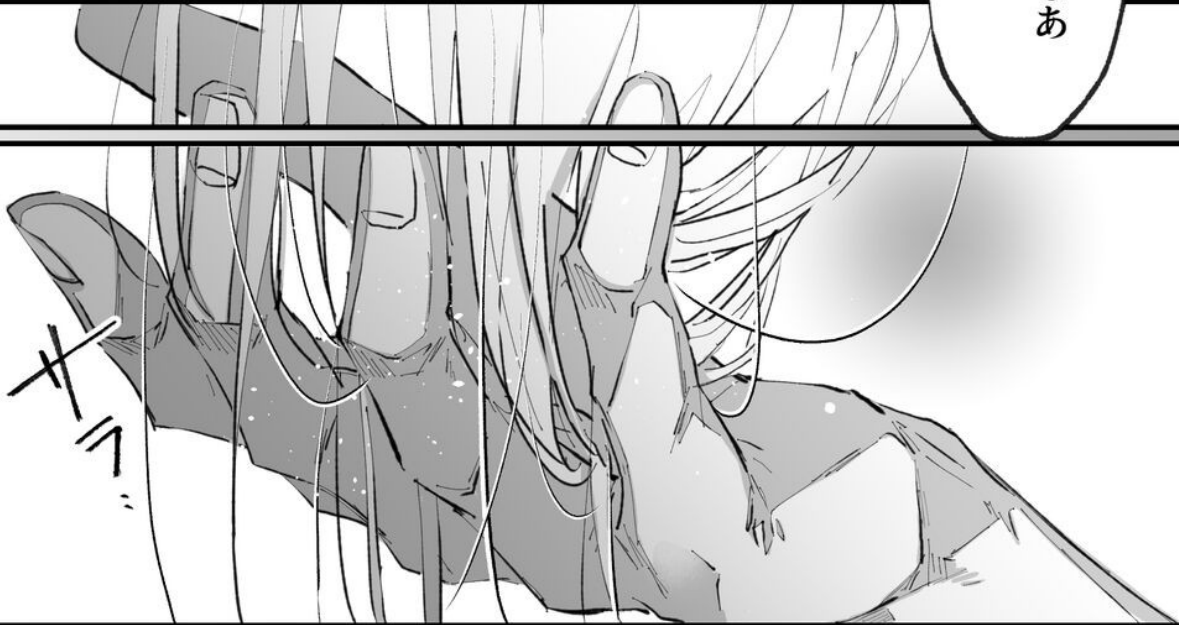
射^だ精すぞ...ッ

ハ
ル
ル
ル
ル

びるっ

はー

……なあ
ララ



俺は

あんたの為なら
何だって出来るよ

脱兎は狼の

愛

を知る

RARA_{ララ}

生存欲求がとても強いです。

飢え死に寸前の所をエザラ様に助けられた事は事実でした。

しかしエザラ様との暮らしはほぼ監禁に近い状態で(その上で身体を暴かれる)、彼はいつしか恩人から恐怖の対象へと変わりました。限界を迎えて逃げ出し、本編に至ります。

レオとはいつまでも蜜月のような日々を過ごします。



LEO

レオ



庇護欲が強く、実は嫉妬心も強いです。

ララとふたりきりで過ごしていた田々に
急に蓋をしていた存在が現れ、
怒りとともに嫉妬心も湧き上がりましたが
理性で飲みこみました。
嫉妬に飲まれてはエザラと同じ結末を
迎えてしまうと思ったからです。

基本的に同族殺しはタブーの世界ですが
愛するララの為なら厭わないでしょう。



EZRA エズラ

エズラ様はララを愛していました。

ですが、種族故のプライドの高さと
従来 of 傲慢さで彼女に接していた為、
ララに気持ちが伝わる事はありませんでした。

ララにあまりにも拒絶される為、
愛の言葉を口にする事も出来ず、
それならばと支配して傍に置こうとしますが
隙をつかれて逃げられました。

個人的にはエズラ様のような
ヒロインと結ばれない当て馬キャラが
とても好きなので、いつか彼と
ララが逃げ出すまでの話も描きたいなあ……と
遠くを見ながら思っています。



初めまして、久津と申します。
この度は「脱兎は狼の愛を知る」をお手に取って頂き有難うございました。

えっちな創作男女を描きた〜い！と思い立ち、
少しずつ描き進めていったのですが思ったより時間が掛かってしまい
最初と絵柄が変わってしまいお恥ずかしいです。

よろしければ感想やレビューなど頂ければ励みになります！
それでは、ここまでお読み頂き有難うございました。

2023.11.14
脱兎は狼の愛を知る
著者 久津

⚠以下の行為は禁止です⚠

無断転載/アップロード/複製・複写/印刷・コピー/転売
Web上への掲載(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)

Reproducing all or any part of the contents is prohibited.